

N15b 鹿児島大学 1m 光赤外望遠鏡による研究成果と将来計画

今田明、面高俊宏、中西裕之、松井真、荒尾考洋、嘉村浩二 (鹿児島大学)

鹿児島大学理学部の所有する 1m 光赤外望遠鏡 (1m 望遠鏡) における最新の研究成果と将来計画について報告する。1m 望遠鏡は、大学所有のものとしては国内最大級の望遠鏡であり、VERA 計画と並行してこれまでに多くのミラ型変光星の探査を行ってきた。その中には我々の長期的な観測により新たにミラ型変光星であることが同定された天体も約 50 天体程度存在し、1m 望遠鏡における主要成果の一つと位置づけることができる。一方で近年、新星、矮新星を始めとする突発天体の測光観測に着手しており、我々主導の下、いくつかの国際共同観測を実施し、新星爆発初期段階における色変化、矮新星降着円盤におけるスーパーハンプ変動を検出するなど、一定の成果を上げている。

本講演では、上記成果を概観し、現在行われている観測の問題点と将来性を議論すると共に、将来取り組む予定の近傍矮小銀河におけるミラ型変光星の探査、ブラックホール連星や AGN 等、その他の突発天体への観測対象の拡張並びに分光器の設置等の計画について議論する。